

ゲンノトピックス

北海道立林業試験場

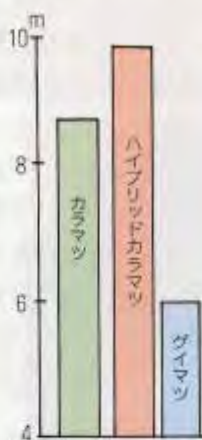
No.1

期待されるハイブリッドカラマツ

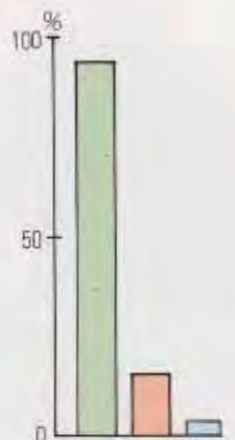


カラマツ ハイブリッドカラマツ ギイマツ

2年生苗の比較



10年生時の樹高



野ねずみの被害本数率



ハイブリッドカラマツ(左)とギイマツ(右)

生長の比較 (10年生)

表紙の説明 ハイブリッドカラマツは、ギイマツを母親とし、カラマツを父親とした一代雑種(F₁)です。両親の長所を受け継ぎ、生長がよく、ギイマツ苗とくらべて枝数が多く、冬芽形成時期が1ヶ月ほど遅くなります。また、カラマツにくらべて野ねずみに食われにくく、幹がまっすぐです。

組織培養による苗木の増殖

～ 優良個体からの品種づくり～

組織培養によるクローンの大量増殖技術は、試験管内で茎頂、種子、樹木の形成層などを培養し、品質が同じ苗木をたくさんつくるものです。この方法を用いると、さし木、つぎ木などが難しかった樹種でもクローン化や品種化ができるようになります。

写真はハイブリッドカラマツの培養の経過を追った例です。生長物質や栄養分をいれた培養器のなかに頂芽を置くと、いくつかの新しい芽が発生し(A)、それぞれの芽からシュートが伸びてきます(B)。この芽を一つずつわけて発根させます(C)。ここまでは人工的な無菌環境です。無菌で育てた苗木を自然環境にならすことを馴化(じゅんか)といいます。Dは馴化中の苗木で、山に植えるまで育てることに成功しています。

林業試験場では、ハイブリッドカラマツのほかに、エゾヤマザクラ、ミズナラ、キハダの組織培養についても研究しています。



心をなごませる緑化樹



パラソルアカシア

道路周辺環境にうるおいをもたせるため、緑豊かな並木づくりが進められています。

写真は、岩見沢市内に植えられているパラソルアカシアです。これはニセアカシアに、わい性のニセアカシアをつぎ木したものです。

林業試験場で開発したこの街路樹は、傘を開いたような樹形をしているのでパラソルアカシアとよばれています。高木にならず、せん定も簡単で、樹形の整った美しい並木をつくることができます。



生垣の展示 (構内)

樹木を用いた緑の美しい生垣は、そこを通る人や住む人に季節感ややすらぎをあたえてくれます。

林業試験場には、イチイ、アカエソマツなど針葉樹7種、カツラ、ヤマモミジなど広葉樹36種の生垣を展示し、四季を通じて葉、花、果実などが楽しめます。

「百聞は一見にしがず」いつも公開していますので、おいでのうえ、感想をお聞かせください。

林業試験場の 組織機構

林業試験場では、実験、研修施設などの整備をおこない、森林、林業に対する道民の要望に応える研究や技術開発を進めています。とくに森林作業の省力化、バイオテクノロジーを活用した優良種苗の大量増殖、森林の育成・保護、都市緑化についての研究や技術指導などの機能を高めるため、平成元年度から次のように組織機構を再編、整備しました。道民の皆さんのご利用をお待ちしています。

組 織 図

